

T TABLE FOR TWO



広がるザンジバルの学校給食

2014年に5校の小学校を対象に始まった給食プログラムは、現在では50校・約28,000人の生徒に広がっています。給食の効果が高く評価したザンジバル教育省は、公的な給食予算を確保するようになり、その規模も年々拡大しています。

ザンジバルでは、地元の農家が栽培した野菜を給食の食材に使う「地産地消型の学校給食プログラム」を推進しています。定番メニューは、豆とソルガムのお粥、そしてビタミンAを豊富に含むオレンジ・サツマイモです。零細農家グループと契約し、指定した農作物を給食用食材として買い上げることで、農家の安定した現金収入にもつながっています。



ソルガムは、高温や乾燥に強い穀物で、給食の主食として活用されています。納入時には、泥汚れが残っていないか、保存に適した乾燥状態であるかなどを確認しています。品質に対する意識には個人差があるため、品質の均一化を目的とした農家向け講習会も定期的には開催されています。



給食が提供されている学校では、生徒の男女比はおおむね半々ですが、小学校卒業時の統一試験では、成績優秀者に占める女子の割合が高い傾向が見られます。この傾向は給食のない学校でも同様で、男子生徒が低年齢から労働力として期待されることも、一因と考えられます。

東アフリカ
タンザニア



日本
大阪

世界を繋ぐ ひとつの テーブル

わたしの一食が、
あの子の一食になる。

特集ページでは、より詳細な内容をご紹介します



TABLE FOR TWO は開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動です。



パナソニックグループは2009年からTFTに参加しています。現在は12拠点でTFTメニュー提供、13拠点でCFTを導入しています。大阪門真拠点では「TFT×プラントベースフード」など、貧困解消と環境改善を掛け合わせたメニューを展開しています。一つの飲食を通じ、社員が多様な社会課題の解決に参画できる体制を整えています。



また、グループ内では食堂以外でも多角的な取り組みをしています。対象となる調理家電の販売実績に基づいた寄付をはじめ、写真投稿キャンペーンや歩数に連動して寄付が行われるウォークラリーなど、社員が日常的に参加しやすいイベントを多数開催することで、活動の輪を広げ続けています。